



SALVATIONIST と きの こ え

2024年標語「世代から世代へ」(詩編145編4、5節)

二〇二四年五月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



初夏号

広報版

2024

May-June

No.2870

2024年 救世軍標語

「世代から世代へ」

「人々が、代々に御業をほめたたえ
力強い御業を告げ知らせますように。
あなたの輝き、栄光と威光
驚くべき御業の数々をわたしは歌います。」

詩編 145 編 4、5 節

ときのこえ SALVATIONIST

初夏号 広報版
2024 May – June
NO.2870

もくじ

■メッセージ	
ペンテコステー収穫の主の祭り	
大尉 栗飯原 順	
■士官志願者部・士官学校	
525 キャンペーン	3
■〔連載〕聖潔の流れに立つ 第32回	
ジョン・ウェスレーの聖潔	
一心うちに燃えて―	
少佐 丸畑 幸夫	 4
■集会報告	
万国書記官指揮による集会	 5
コイノニア・リトリート 2024	6
■災害対策室リポート	
能登半島地震被災地支援 続報	7
■各地のニュース !!	
医療部	 7
■各地のニュース !!	
静清小隊、京都小隊、東京東海道連隊、 女性部	 8
東海道地区、仙台小隊、ジャパン・スタッ フ・バンド	9
■YP（青少年部）・ファミリーニュース	
中高生キャンプ、帯広小隊	10
佐野小隊、あかし、名古屋小隊、渋谷小 隊	11
■証言	
中山安代少佐	12
■〈連載・第26回〉	
神の呼びかけ～神の民となるために～ (10) 信仰を養うことへの呼びかけ	13
■救世軍見解表明	
社会道徳に対する救世軍の立場	
第11回「死刑」(3)	
第12回「安楽死及び自殺ほう助」(1)	14
■召天記事、救世軍公報、祈りのリソース	
	15
■各地のニュース !!	
月島小隊、横浜小隊、前橋小隊	16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりと

- ☐ 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- ☐ キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：広島平和記念公園を
訪れた万国書記官マックスウェル
中将夫妻

メッセージ

ペンテコステ

―収穫の主の祭り

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満



たされ、**「霊」**が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」（使徒2・1～4）

まるで映画のワンシーンのようですが、イエスが復活して五十日目、ユダヤの五旬祭真つ只中の日に聖霊が降った様子がルカによって記されています。キリスト教では、聖霊が降った日を普遍的教会の誕生日とし、ペンテコステ（ギリシャ語で五十番目の意味）と呼んでお祝いします。

なぜ、五旬祭の日に聖霊が降ったのでしょうか？

まず、五旬祭は七週祭、刈り入れの祭りとも呼ばれる収穫の祭り、神は上等の小麦でつくったパン（酵母）入りの二つのパン（ユダヤ人と異邦人

大尉 栗飯原 順

を象徴する）を奉納物とするようにと命じています（レビ23・15～17）。パン種は罪を示し、ユダヤ人も異邦人も神の前に等しく罪人であることを明らかにする一方、奉納物とせよということは罪人を受け入れるということになります。しかし、神は決して罪を見過ごすことのできないお方です。この矛盾を解決するには、贖い主（イエス・キリスト）が必要であることを前もって示されたのです。

また、この五旬祭には、モーセの律法が与えられたことを記念して祝います。旧約時代の五旬祭、新約時代のペンテコステが共に、霊的な刷新日となっていることは大変興味深いところで、また、五旬祭は第二の初穂の祭りとも呼ばれています。最初に弟子たちに聖霊が降りましたが、それに続

いて大きな収穫があるということを意味しており、ペンテコステ以降、イエス・キリストを信じる者には、聖霊が心に住んでくださるようになります。

そして、神は祭りをを用いて、「イエスの証人」となる者を招かれます。五旬祭は、神の定めた巡礼の祭りで、成人男子は神殿に上ることが義務付けられていたもので、あらゆる国から帰って来た信心深いユダヤ人や改宗した外国人が大勢エルサレムに滞在していました。

「炎は神の臨在を、**「舌」**は言葉を象徴しています。

弟子たちが他の国々の言葉で話しましたが、このことは、現在、聖書が一部翻訳も含めて、三千三百五十言語以上に翻訳されていることの予表であったと言えるでしょう。この時、ペ

トロの説教により、三千人が救われ、彼らはイエスの証人として世界中に遣わされて行きました。彼らに続く私たちも、同じようにイエスの証人として召されていることを覚えなければいけません。イエスは、

「収穫は多いが、働き

手が少ない。だから、収穫のために働き手を送つてくださるうちに、収穫の主に願いなさい」（ルカ10・2）

た。後に、神と人とに仕える彼女の美しい生き方にボアズが好意を寄せ、結婚しました。それは五旬祭の頃でした。そして、この二人からオベドが生まれ、オベドからエッサイ、エッサイからダビデが生まれ、ダビデの家系である処女マリヤから、私たちの救い主イエスが生まれました。

神は、魂の収穫のために、ユダヤ人も異邦人も御心のままに用いられる収穫の主なのです。

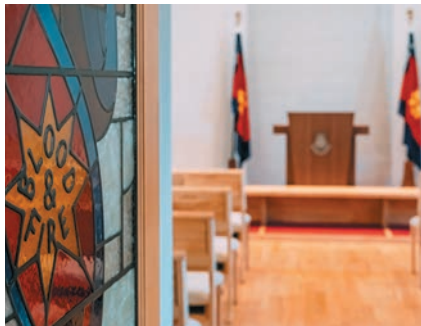
（西日本連隊本部付）

士官志願者部・士官学校

● 525 キャンペーン～共に主の門に入ろう

2025年に向かつての新たな祈りの取り組みが始まります。これは5人の候補生が2025年に与えられるよう、軍国全体で祈る取り組みです。期間は2024年5月～2025年3月です。デボーション・ガイドブックを用い、士官候補生及び献身者が与えられるよう、どうぞ祈りに加わってください。

5月24日（金）19時から、山室軍平記念ホールで「525 キャンペーン～共に主の門に入ろう」出発集会をおこないます。



連載 聖潔の流れに立つ 第三十二回

ジョン・ウェスレーの聖潔
― 心うちに燃えて ―

少佐 丸畑 幸夫

(承前) ウィリアム・ジェイムズは、プラグマティズムによって、人間の宗教現象を分析した。人間の経験の上に立つ宗教の解明がジェイムズの目指した方向である。行為の中に現れてこない宗教は信仰ではない。

「死んだ信仰だ」と彼は訴えている。真実は行為に現れなければならないと言うのである。それによって、高嶺の花が手の届く身近なものになる。それは冷たい概念ではなく、暖かい真実なのである。暖かい真実になって、はじめて、人間生活に価値を与える。体験を通して、高い存在であった「神」が人間の手の届くところにいる「協力者」に変わる。福音の具体化が時代の要請であった。ウェスレーはジェイムズの影響を受けたかどうかは定かではないが、ウェスレーの思想の中にも顕著に示されている。しかし、私たちは主観的に「自分の行為」を過大評価しても、それが、永遠の生命を保証するものではない。

さらに、一五一七年頃のルターにおいては、宗教経験とは、ただ平安と福祉を求めることを第一とはしていない。罪を悔いて、その責任を負うことこそ福音の中枢と考えていた。だが、金銭を節約し、貧民への施しに用いるべきことを勧め、「人を善良にする愛」の徳を教えている。

ウェスレーは、神は呼吸によってウェスレーと相つ

らなるといふ生命感を体験した。また神を直接的に見ることができるとし、超自然的のものの実在を直視できる実践的メソジズムを彼は説いた。

英国の諸教会はメソジストの敬虔けいけんの神学に共鳴したのではなく、実践的体験による感化を受けた。次第に福音主義低教会は影響を受けるようになった。メソジスト派の信仰復興の感化によって回心した者の中にジョン・ニュートン等がいる。

この「内なる光」の霊的真理は、フォックス(クエーカー派)の確信でもあった。神秘性は別として、フォックスとウェスレーには共通の部分がある。この確信を山室軍平も高く評価しているが、神秘性と情緒性の濃い熱狂主義等には警戒している。しかし聖霊の神秘的生命力の関与を否定してはいない。ここに言う神秘は、言葉で表し得ない神の愛のことであろう。

また、シュライエルマツハーの「絶対者に対する依存感情」という提唱の中にある神の啓示と一つになる体験を知的に認識する姿勢は、ウェスレーの中にも見られる。イエス・キリストをもつて、啓示の極致とする点は同じである。バルト等は、ウェスレーの神学は主観主義の傾向が強いと言っている。すなわち、感情の意義を過大視すると見ているが、ウェスレー自身は心して宗教主観主義の危険については十分に承知しているのだ、問題はない。

私自身も時折、聖霊経験などについて語ると、宗教主観主義が強過ぎるとの批評を受けることがある。メソジスト系の信仰者の特徴であろう。主観主義の危険は「心情を大切に宗教」に内在しているとは言え、ウェスレーは敬虔主義と宗教改革の客観性との健全なバランスを有していた。

彼はロマンティックな性格を有していたので、内的聖潔せいけつを大切にしていた。その社会的要素を無視してはならない。思想的な立場より見ず、精神的靈性から見れば別なものが見えてくる。

ウェスレーの体験的でしかも経験を重視し、実践を

重んじる「暖かい真実」は、人間生活に実際的な価値を与えた。宗教が現実の生活の中で美しく花開くことをウェスレーは経験していたのである。

最も人間らしい宗教信仰が体験されたのは、ウェスレーの「燃える心の実」となった。

神の言ことばとしての聖書と活けるキリストの事実を通して神を理解でき、聖霊の活ける働きを通して三位一体の神を体験できるキリスト教観が、ウェスレーの体験主義の中核をなしている。宗教の概念を排し、その生活実践を重んじることが彼にとって大切であった。

C. 体験主義的信仰

ウェスレーの神学思想を支える柱は、「聖書と体験」であった。彼は聖書をあらゆる体験を検証する外在的基準と権威であるとした。そして、絶対者として実在する神は、人格的な働きかけをもつて霊に迫り来る超自然的存在者であった。

ウェスレーは、「神が人の霊に息を吹き込み、神の業は人の霊に向かって絶えず続けられ、人の霊の業もまた神に向かって繰り返され続けるが、これは愛と頌栄と祈禱のうちになされるのである」と言っている。

この文章の中には、体験主義的神観の主要なものが含まれている。神から吹き込まれた息を吹き返すというのは、極めて神との関わりの深さを示す表現である。彼は厳しい学問よりも実際の敬虔のほうに関心があつた。また、ウェスレーの体験主義的神観の著しい特質の一つは、キリスト中心の傾向である。内省的なウェスレーが進撃的な野外説教に力を尽くすようになったのは、体験主義的傾向が強くなったからであろう。

日々に新しい感激をもつて、神と最も深いところにおいて交わりをもつ中に、キリスト者生活の喜びの体験が著しく増大する。ここにウェスレーの体験主義的宗教観の基調があつた。正しい喜びをもつと、老衰のさざしを帯びず、新しい青春の来るのを待ちわび、死を迎える時までそれは続く。いつも青年である感情を有している彼の体験主義の基調がここにある。

集会 報告

万国書記官指揮による集会

3月24日(日) 杉並小隊 3月31日(日) 天満小隊、西日本連隊京阪神地区

3月23日(土)～4月3日(水)、日本軍国監査のため、南太平洋及び東アジア地域万国書記官のウェイン・マックスウェル中將及びロビン・マックスウェル中將が来日しました。

●3月24日(日) 杉並小隊 午前は聖別会を指揮。書記長官西村保大佐補の司会で進められ、バンドの奏楽で開会の賛美をしました。司令官スティーブン・モーリス大佐の挨拶に続き、杉並小隊士官山谷昌子少佐に35年の士官永年勤続章が授与されました。ロビン・マックスウェル中將が勧話をし、歌のグループは、棕櫚の日曜日にあたり、なつめやしの枝を振って「ダビデの子、ホサナ」を賛美しました。ウェイン・マックスウェル中將はヨハネ12:1～11から「究極の愛」と題してメッセージをしました。午後は万国書記官夫妻と杉並小隊青年たちとのユース交流会をしました。

●3月31日(日) 天満小隊、西日本連隊京阪神地区

午前はイースター聖別会を指揮。司令官モーリス大佐夫妻と通訳の山谷真少佐が同行しました。聖別会は西日本連隊長本村大輔大尉の司会で進められ、バンドの奏楽で賛美をしました。ウェンディ・モーリス大佐が開会祈祷、スティーブン・モーリス大佐が挨拶をし、ロビン・マックスウェル中將から勧話がありました。メッセージは「主はよみがえられた」と題してウェイン・マックスウェル中將が語りました。

歓迎昼食会は戦友の自己紹介や「聞いてみたいこと何でもQ&A」など、ゆったりした時を過ごしました。

午後からは京阪神地区連合集会として、「南太平洋及び東アジア(SPEA)地域 世界の救世軍について」学ぶ時をもちました。大阪セントラルホールバンドが開会前に演奏をし、神戸小隊士官 立石真崇少佐の司会で皆で賛美を歌い、万国書記官夫妻から、SPEA地域の救世



杉並小隊

軍の活動や祈りの課題などの紹介がなされました。学びを通し、国際的な救世軍の働きに、一人ひとりがもっと関心をもって祈っていく



杉並小隊でユースとの交流会

よう励まされました。

このほか、万国書記官夫妻は期間中、軍国運営会議メンバーや本営各部長との面談、杉並地区・清瀬地区の視察、広島・呉地区の視察、軍国下士官諮問委員(2023年度委員)との面談などをおこないました。4月1日(月)は東京地区社会福祉部・医療部合同入職式に出席し、New Hope 麻布を視察。4月3日に離日しました。



京阪神地区連合集会で

※大將は、万国任命会議において、2024年3月1日付で、すべての「地域女性部書記」の呼称を「万国書記官」とすることを決定されました。この呼称の変更は、夫婦共、万国本営及び担当地域の働きにおいて、同等の階級、責任、感化力をもつことを定めたものです。

南太平洋及び東アジア(SPEA)地域

オーストラリア軍国、香港及びマカオ軍国、インドネシア軍国、日本軍国、韓国軍国(カンボジア、モンゴルを管轄)、ニュージーランド・フィジー・トンガ及びサモア軍国、パプアニューギニア及びソロモン諸島軍国、フィリピン軍国、シンガポール・マレーシア・ミャンマー及びタイ軍国、台湾準地区

祈りの課題

- ・より多くの士官が与えられるように
- ・すべての救世軍人の健康と安全
- ・災害への緊急支援活動のため(台風、地震、山火事、洪水)
- ・財源が満たされるように
- ・福音伝道の自由のため
- ・ミャンマーの平和と安定のため



天満小隊

集会 報告

コイノニア・リトリート2024

3月8日(金)～10日(日) 杉並小隊・総合センター別館(アネックス)

これまでの「ユース・セミナー」を今年から名称変更し、開催されました。今年は、キリスト者学生会(KGK)副総主事の塚本良樹師をゲストに迎え、塚本師は「聖書っぽくではなく、聖書的に生きよう!」というテーマでセッション①～③を導きました。各セッションの内容は以下のとおりです。

3月8日(金) セッション①「救われているってどういうこと? どうして救われてるってわかるの?! 聖書から一緒に考えよう!」 聖書箇所:詩編46編

クリスチャンである私たちは、自分が聖書的に生きているか定期的に吟味する必要がある。そのためにもこのようなリトリートは大切。苦難の時、私たちは救われていることへの確信が揺らぐ経験をする。災害や社会の混乱、戦争があり、いつの時代にも変わらない、若者ならではの問い、生き方についての悩みがある。詩編の作者は「わたしたちは決して恐れない」と言う。それは、主の成し遂げられることを仰ぎ見、「力を捨てよ、知れ」とおっしゃる神に任せられるから。聖書を通して、歴史の中で、また自分の人生の中で主の成し遂げられることを知っていこう。私たちの思いを超えてはるかに大きい神がおられ、深い十字架の恵みがある。

3月9日(土) セッション②「罪ってそもそも何? 日曜日と平日の生き方が違う自分がある…。聖書の人物も同じ課題を抱えていた?!」 聖書箇所:ルカによる福音書22章54～62節

クリスチャンとしての生き方、キリスト教倫理とは、律法を基に自分や他人を裁いたり(律法主義)、逆に、罪赦されるならなんでもありだ(無律法主義)というのではなく、福音によって私たちは造り変えられるという福音主義。私たちの仕事、結婚、人間関係などにおいて、二重生活は起こりやすい。ペトロはイエス様を知らないと三度否定した。決心が揺らいだり、とっさに生き方が聖書からずれてしまうことは起こりうる。ペトロは自分の失敗、罪を無視せず、感情にふたをせずに泣いた。それは自分のおこないに正面から向き合ったということ。罪を隠すことのほうが深刻な問題。イエス様に赦され続けること、変えられ続けることが肝心。罪を犯しても福音に生きることをあきらめないように。

3月9日(土) 午後 セッション③「終末には何がある? 聖書が語る終末を目指して生きるってどういうこと? どんな戦いと喜びがあるの?」 聖書箇所:ヨハネの黙示録7章9～17節

地上の現実では誘惑、迫害、争いがあるが、天の現実には勝利、報い、多くの文化の共生。やがて天と地が一つになる終わりの時=完成の時が来ることは確実である。終末を生きる神の民として、私たちは自分の生き方を顧み、永遠の喜びがあることを知っているクリスチャンとして、安心して最善を尽くしていこう。

「ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい」(フィリピ1:27)とある。フィリピでクリスチャンはマイノリティだった。少数派であっても、市民として日常を丁寧(ていねい)に生きること、福音を知っている者として、赦され変えられながら生きるように勧められている。これは一人ではできないことではない。パウロのような先輩、バルナバのような友、テモテのような後輩を祈り求めよう。毎週の聖別会は、天の現実を垣間見る時間であり、天の礼拝につながっている。そのことを意識し、神の御業を見つめ続け、礼拝を献げていこう。

フリータイムには自然と塚本師夫妻を囲んでの質問タイムになり、色々な質問が出ていました。最後には塚本師と参加者皆でゲームを楽しみました。

3月10日(日) 10時から聖別会。皆で賛美をし、塚本師が詩編1・1～6からメッセージしました。

良い学びと交流の時をもち、参加者は恵みのうちに散会しました。(参加者34人)



〈お知らせ〉 『キッズ・ゴスペル』発信 方法が変わりました!



2024年4月号より、『キッズ・ゴスペル』(子ども向け紙面)の発信方法が変更されました。

『ときのこえ』福音版(1日号)4ページに、『キッズ・ゴスペル』用QRコードが掲載されています。QRコードをスマホのカメラで読み取って、紙面を閲覧することができます。紙面メッセージと連動した聖書アニメも見ることができます。どうぞご活用ください!

(※各小隊、部門には青少年部からPDFデータも送付されます。印刷してご利用いただけます。)



災害対策室レポート

●令和6年能登半島地震 被災地支援活動 続報

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」(以下、「能登地震」と表記)の被災地支援活動を、能登ヘルプの協力調整の中で続けています。

●第二回食事(炊き出し)支援

3月5日(火)～7日(木)の日程でおこないました(5日、7日は移動日)。今回のチームリーダーは北海道連隊長 石坂臣司少佐。北海道、高崎、東京、大阪、広島から集まった士官、兵士、施設職員ら17人が参加しました。避難中の食生活で野菜が不足しがちであるとの現地の声に応え、焼肉と野菜のお弁当を用意し、3月6日(水)、輪島市門前中学校及び近隣地域、避難所へ合計390食を配布しました。ご飯はキャンティンカーで炊飯しました。食材準備は第一回の支援同様、救世軍ブース記念病院栄養科が担当しました。また、門前中学校ではジャパン・スタッフ・バンドメンバーを中心に、調理後、学校の授業



が始まる前までの短い時間でしたが、バンドの演奏をしました。また、中学校での活動終了後は門前聖書教会に寄り、教会前でもバンド演奏をする機会がありました。

前回の炊き出しに続き、コロナ禍以後、久しぶりにキャンティンカーが出動し、用いられました。キャンティンカーを用いての災害支援に多くの人携わり、次世代の育成が図られ、災害時の対応能力が向上することが期待されます。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

医療部

●清瀬病院 85 周年記念集会

3月1日(金)午後1時半より、清瀬病院ホスピスチャペルにておこなわれました。

司会の引地正樹事務長が、清瀬病院の前身である清瀬療養園園長 岩佐倫中佐の開設時の挨拶文を読み上げ、創設の思いを新たにしました。軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の祈祷の後、来賓である清瀬市の瀬谷真副市長が祝辞として、清瀬市 濫谷桂司市長の挨拶を代読されました。司令官スティーブン・モーリス大佐は、永年勤続者の代表として勤続20年、勤続10年の二人の職員に感謝状を贈呈しました。また、2月1日に開設された「介護医療院シャロン」の土居弘幸施

設長、加納由美子副施設長に辞令を渡しました。司令官が「痛みを抱える人々とその家族に仕えて85年」と題してメッセージをし、祈祷をもって会を閉じました。(会衆50人)

●清瀬病院介護医療院シャロンの開設

清瀬病院では、これまで主に介護療養病棟として運営していた第2病棟を介護医療院へ転換し、2024年2月1日付で救世軍清瀬病院介護医療院シャロン(60床)を開設しました。介護医療院とは、「日常的な医学管理」や、「看取りやターミナルケア」等の医療機能と、「生活施設」としての機能を兼ね備えた施設です。長期にわたり療養が必要な要介護者に対して、「長期療養のための医療」と「日常生活上のお世話(介護)」を一体的に提供します。この新しい働きのためにどうぞお祈りください。



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

静清小隊

●クリスマス聖別会

2023年12月24日、2019年以来、4年ぶりに愛泉会のぞみ保育園・えじり保育園職員の方々と共に、クリスマス聖別会を守りました。職員のお子さんや元職員の方も含め、8人が出席されました。(会衆21人) 説教者には、かつて沼津・静岡・清水(現在の静清小隊の前身)で奉仕した鈴木雅子少佐を迎えました。聖別会後に、ささやかな福引等もあり、喜びと恵みのクリスマスとなりました。



年に召天された夫君の正浩さんと共に静清小隊(旧清水小隊)を支えられました。退院が間近と言われていたもので、ご家族、戦友にとっては大きな驚きと悲しみでした。ご遺族、特に長女・児玉恵小隊女性部会計の上に主の慰めをお祈りします。



在りし日の
城之内正浩さん、土華子さん

●城之内士華子兵士の召天

2023年8月末より入院中だった静清小隊の城之内士華子兵士が、2024年1月30日に召天されました。89歳でした。家庭団会計、大人部副会計として奉仕し、2021

京都小隊

●ゴスペル亭パウロ 2024 年初春落語独演会

2024年1月20日(土)におこないました。「教会で落語を!」との思いから始まったパウロさんの落語会も4回目となり、27人が集いました。今回は、古典落語「動物園」のほかに、防災落語「主に守られて 東日本大震災 大津波からの生還物語」と福音落語「長野政雄物語―塩狩峠《旭川編》」の三演目を熱演してくださいました。当日は、館内に社会鍋スタンドを立て、能登半島地震被災者救援の募金のお願いをしましたが、落語の後、

パウロさんも被災者支援のための社会鍋募金のアピールをしてくださり、多くの方がご協力くださいました。



東京東海道連隊

●賛美礼拝

東京東海道連隊では2024年1月から連隊主催の賛美礼拝が始まりました。毎月第3日曜日の午後3時から士官学校の講堂を会場に、様々な年代の方が集まり、おこなっています。これからも継続して、霊と真理をもって共に賛美を献げていく時となり、また、主にある交わりの機会となるよう願っています。



女性部 ●世界祈禱日

3月1日(金)、パレスチナからの式文を用いて全国各地で祈りが献げられました。テーマは「パレスチナからのメッセージ あなたがたに勧めます……愛をもって互いに忍耐しなさい」(エフェソの信徒への手紙4章1～3節)でした。横浜地区は3月2日(土)におこなわれました。

東京集会は3月1日(金)、日本基督教団阿佐ヶ谷教会でおこなわれ、日本福音ルーテル津田沼教会の関野和寛牧師がパレスチナを訪ねた折りの体験を通して、現地にある分断の壁を倒して多くの方が共に座るテーブルになるように、遠く離れた日本からも祈り、自分にできる支援を考え実践していきましょう、とメッセージしました。



5月、6月
女性部ラリー
(各連隊)

詳細は小隊で
ご確認ください



東京東海道連隊 東海地区

●東海地区懇親会

2月23日(金・祝)名古屋小隊を会場におこなわれました。静清小隊、浜松小隊、名古屋小隊から24人が参加しました。午前の礼拝は、連隊女性部書記 鈴木真理子大尉の司会で進行。大坪満加恵兵士(名古屋)の奏樂で主を賛美し、小林早苗少佐(浜松)が開会祈禱を献げました。児玉恵小隊女性部会計(静清)が、「1月に母を天に送り、仕事のことも、家族のことも時になくなって、すべてのことを神様が導いてくださっていることを感謝」と証しました。連隊長中島美和大尉が詩編139編を通して、「神様は、私たちを母の胎内に形造られる前からご存じで、私たちのすべてを知って、導いてくださる。詩編の作者が、私の心を探り極めてください、と祈ったように、御手をもって導いてくださる主と共に歩いていきましょう」と御言葉を取り次ぎました。

昼食をはさんで、午後は、体を使ってジェスチャーゲームなどを楽しみ、名古屋小隊の戦友の導きで、「海と空つくられた主は」の手話賛美を献げました。約5年ぶりに開催した懇親会で、皆さんの笑顔が多く見られました。この日は、懇親会で東海地区の皆さんとの再会を楽しみに名古屋小隊に集った元日曜学校生徒もあり、お互いを喜び合う恵みのひと時でした。(連隊報)



仙台小隊

●社会福祉部長及び JSB アンサンブルの出陣

3月10日(日)は、社会福祉部長石川一由紀少佐とジャパン・スタッフ・バンド(JSB)アンサンブルを迎えての聖別会でした。石川少佐が詩編145編より「今を生きる私たちの希望」と題しメッセージをしました。14時からJSBによる「仙台小隊チャリティコンサート」をおこない、34人の方々が来場されました。「たけのこバンド」も演奏者として加わりました。来場者からは「ぜ



チャリティコンサート



ゴスペル亭パウロさんの熱演

ひまた来たい」との声も聞かれ、主につながる魂が起こされることを祈っています。

●ゴスペル亭パウロ落語会

3月16日(土)におこないました。明治時代クリスチャン偉人落語「山室軍平、機恵子物語」を含む三演目が上演され、22人の方が集い、良い時となりました。

ジャパン・スタッフ・バンド

●愛と希望のコンサート 2024

3月11日(月)13時30分から、石巻ビーワンチャーチでおこなわれました(宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会主催)。会場には100人以上が集いました。JSBアンサンブル、ゴスペル亭パウロさん、オペラ歌手の当重茜さん、フラダンスグループ「カイラニデイ」、ゴスペル歌手の横山大輔・和子さんによるコンサートがあり、地震が発生した14時46分には、サイレンに合わせ皆で黙祷しました。コンサートはYouTubeで一般公開されています。



YP (青少年部)・ファミリーニュース

中高生キャンプ

4月1日(月)～4月3日(水) 会場：奥多摩バイブルチャレー
テーマ「イエス様しか勝たん！」(テーマ聖句 コロサイ1:13)

昨年に引き続き第2回目となる中高生キャンプに、全国から15人の中高生が集いました。期間中、参加した青年たちは皆でゲームやディボーションをし、共に祈る時をもち、関係を深めました。

オープニング礼拝では賛美とゲームで盛り上がり、青少年部 朝澤まりこ大尉がメッセージをしました。夕食まで、チームごとに集まって、翌日の「ホンキのかくれんぼ」のための作戦会議と、隠れるためのアイテムの買い出しに出かけました。夜のウェルカム・ナイトでは、チーム対抗のゲーム大会でさらにチームの絆を深め、呉小隊士官友安渚中尉がメッセージをしました。

2日目はディボーションから始まり、「聴くドラマ聖書」アプリを用いて、全員で聖書の朗読に耳を傾け、その箇所について、分かち合い祈り合う時をもちました。その後、チーム対抗の「ホンキのかくれんぼ」をおこない、敷地内全体を使って、かくれんぼをしました。午後は、体育館に移動し、ミニ運動会をおこない、思いっきり身体を動かしました。その後、男女に分かれて、男子会/女子会の時間をもちました。女子は周辺を散策し、素敵なカフェに行ってお茶と交わりの時間を楽しみ、男子はスポーツを楽しみました。自由時間も思い思いにスポーツやカードゲームなどで交わりを深めました。



夕食のバーベキューの後には、キャンプファイヤーで火を囲み、賛美と証言の時間をもち、帯広小隊士官樋口潔中尉がメッセージをしました。その後、それぞれのチームに分かれて祈りの時が導かれました。参加者は最後まで焚火を囲み、花火やマシュマロを焼いて楽しみました。

最終日の派遣礼拝では、参加者一人ひとりがひと言キャンプの感想や証言をして、青少年部長朝澤義人大尉がメッセージをし、招きに応じて参加者は信仰を表明し、また、イエス様に仕えたいという思いを表しました。今回、メッセンジャーは共通して、それぞれの中高生時代のことを分かち合い、中高生の参加者が抱える闇や痛みに寄り添い、励ます御言葉を大胆に語りました。そして、「イエス様しか勝たん！」というテーマのとおり、イエス様は既に勝利しておられること、すべての解決はイエス様にあること、どんな問題も、課題も不安も、イエス様のもとに持っていくことを勧めました。新たな学校、新たなクラス、新たな環境に入っていく中高生たちにとって、全国の仲間と共に、賛美と祈りと御言葉をもって、新年度を始めることができ、励まされる時となりました。

(参加者26人、青少年部報)



帯広小隊

●パン教室

3月28日(木)、帯広小隊でパン教室を開催しました。午前と午後の二部制でおこない、春休み中ということもあり、午前の部には小学生や幼稚園の子どもたちも参加し、親子でピザづくりをしました。生地からこねてつく

り、それぞれ好きな具材をのせてガスオーブンで焼きました。パンの発酵を待つ時間には、小隊士官樋口潔中尉が十字架と復活の話を子どもたちにして、礼拝堂に隠されたイースターエッグ(チョコ)探しをしました。お昼に焼き上がった熱々のピザをみんなでおいしく食べました。(33人)



佐野小隊

●ジュニア・ソルジャー入隊式、准兵士宣言

3月17日(日)、聖別会席上、小隊士官吉田慎也中尉の司式で、佐々木花さんのジュニア・ソルジャーの入隊式がおこなわれました。花さんが小学校で習った漢字を使って証言を書িয়েくれました。

また同時に、花さんの祖母である、佐々木陽子家庭団員の准兵士宣言もおこなわれました。神の導きに感謝し、これからの信仰の歩みの上に祝福をお祈りしました。



名古屋小隊

●進級進学お祝い会

3月24日(日)、お昼から、子どもたちと保護者を招いて、進級進学お祝い会をしました。ハンバーガーのランチの後、大竹美菜子青少年部曹長の司会で、一人ずつ新学年の期待を發表しました。進学する青年たちへプレゼントを渡し、繁田忍書記の証言を聞いて、小隊士官加藤直子少佐がお祈りをしました。集会後、カードゲームを楽しみました。出席できなかったお友だちも別の日にスイーツでお祝いしました。



あかし 「イエス様大好き」

家族3人で かも川シーワールドのシャチのショーを見ていた時のことです。

あいているベンチがなくて私は弟のそばに立っていました。そうしたら、反対がわにすわっていいと少し年をとったおばあさんが間をつめてくれたので、弟はお母さんのひざにすわり、私もすわることができました。

ショーが終わり帰ろうとした時、せきをあけてくれたおばあさんが「上からいつもイエス様が見ていてくださるから、幸せにすごせますよ」と、私に言ってきました。

私は、はじめて会った人に、「なぜ、私がイエス様のことが大好きなことをしているんだろう」と、ふしぎに思いました。

とてもうれしかったいけんだったので、家に帰っておばあちゃんにそのことを話したら、「花ちゃんからイエス様大好きオーラがいっぱい出ていたから、そのおばあさんにはそれが見えていたんじゃないかな」と、言われました。「そうかもしれない。イエス様を信じている人にはわかるんだ」と、ますます幸せな気持ちになりました。

イエス様は私のねがいをたくさんかなえてくださいます。わたしのそばにはいつもイエス様がいてくださいます。

イエス様のことが大好きです。

佐野小隊ジュニア・ソルジャー 佐々木 花

渋谷小隊

●イースターサンデー

3月31日(日)、聖別会では、進級・進学する子どもたちをお祝いする時をもちました。(60人) また、お昼にはテラスでイースターランチをおこないました。好天の中、多くの戦友・兄弟姉妹と共に、ピザやお寿司をいただきながらイースターの喜びを分かち合いました。(47人)



5月
青年デー
(各連隊)

詳細は小隊でご確認ください

みなさん、
進級進学、おめでとう
ございます！



証言

少佐 中山安代

私が物心ついた頃、日本は第二次世界大戦のさなかでした。目の前に爆弾が落ちてきて人が死ぬ。我が家の前は田んぼに引く水の流れる川があり、この川に人間の手や足が流れてきました。そんな時、幼心に「人は何のために生き、何のために死ぬのか？」と考えるようになりました。そして本をよく読みました。

中高生の頃、人生とは、「与えられた命を何事かのために燃焼していくことなのだ」と思いました。そして「自分が何のために生きるか」と考えたり、「私の人生は、私に何を期待しているのか」と考えるようになりました。

そんな頃、十九歳の一月に、友人が私を熊谷小隊に誘ってくれました。初野戦から、その後の集会すべてに出席。与えられた聖書は三回読みました。早朝、聖書を読んでおきますと、「天地は過ぎゆかん、されどわが言は永遠に変わることなし」（マタイ24:35）と御言葉（みことば）をいただきました。時代はどんどん変わり、人間の価値観や、年々変わる人の世ははかないが、イエス様のことは永遠に変わらない。このお方の導きに従って生きていこうと決心し、真の平安と心の奥からの喜びをいただきました。

私の場合はこういう訳で、救いと召命が一緒だったのです。三年間の兵士時代を送り、仕事の都合で転籍していた神田小隊より士官学校に入校しました。少尉、中尉と戦場で救霊戦を戦い、三年してから中山瑞雄（当時大尉）と結婚しました。中山は「自分は日本で一番、気の毒な人々のために働きたい」と言い、私は「日本で気の毒な状態の中にある女性のため働きたい」と話しました。そのためには神様の前にも、日本

の法律に従ってそれなりの働きに必要な知識と資格を取得しましょう、ということとで、朝六時〜夜十一時は神様の時間として救世軍の働き、救霊、牧会のため休みなしで働き、夜の十一時〜朝六時の間に勉強したのです。中山は大学で教職の課目が残っているためそれを通して学び、私は、生まれた一人娘を実験台として保母の学びをしました。四、五十年くらい前は、教職や保母の資格があれば社会福祉部でも働くことを認められたのです。資格を取得しても、四十五年間の士官生活で直接お気の毒な人のために働く機会は六、七年でした。

その中山が結婚して間もなく、「福音の種まきをしよう、それには心の柔らかい幼い子らがよい。」「幼い時に福音にふれないなら、大人になっても老人になってもイエス様のところに来ない。時かぬ種は生えない。」こういうわけで私たちはこの小隊に行っても、毎月「子ども伝道会」「子ども会」を盛んにしました。その中山も二〇一九年七月一日召天しました。

福音の種まき一筋天帰る（夫瑞雄少佐召天の祈りに）
私の辞世の句
十字架の道のほとりに花野かな

去年今年我を貫く神の愛

ローマの信徒への手紙一
四章八節に「わたしたちは、生きる」とすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のもの「です」とあります。わたしの願ひではなく、「あなたの御心が行われますように」（マタイ26:42）と祈りつつ、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）と言われる主の御言葉を信じ、生かされていきます。

ホイヴェルス「神は最後に一番よい仕事を残してくださる。それは祈りだ。手はなにもできない。けれども最後まで合掌できる。愛するすべての人のうえに神の恵みを求めるために。」朝に晩に、手が空いた時祈っています。

URのアパートの一人暮らしの八十歳の女性に、「キリストをなしにして二人で友達になりましょう」と言われた時、世俗の人とクリスチャンの違いに気が付きました。いざとなるとこの世の人との違い——人生観、人間観、価値観など——がはつきりしてきます。

「主が望まれるのは主を畏れる人。主の慈しみを待ち望む人。」（詩編147:11）

山室中将の一日についての言葉に、「朝は戦闘準備の時（祈って一日の力をいただく）。昼は奮闘力戦の時（全力で働く、努力する）。夜は勝ってかぶとの緒を締める時（一日を反省、しめくり、翌日の準備の時）」とあります。私の場合は、朝は祈り、昼も時をつくって祈り、夜も祈る。「祭壇の火は絶えず燃やし続けよ」とありますが、

一度神に献げた人生は引退しても献げたもので、神のもので、私個人のものではない。

細々と小さなものしびですが、祈りの火を心に燃やしつつ、天に帰るまで献げ続けたいと思います。欠け目多き小さな器の私を神様が救い上げ、召して、誠に小さな働きでしたが、「私の人生を救世軍士官として神様が用いて、神様のご用をさせていただきますこと」といまさらながら心からありがたく、感謝しております。（引退士官）



昭和45年4月、八幡小隊在任中。礼拝に参加していた折尾女子学園の学生たちと（後列右から2番目が筆者、右端が中山瑞雄少佐（当時大尉））

〈連載・第26回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(10) 信仰を養うことへの呼びかけ

(承前) 信仰を養うための呼びかけにおいては、心躍る言葉が並んでいます。抜き出してみると、研究、開発、創出、促進などです。挑戦してくる表現もあります。新しいやり方、訓練する、霊的な成熟、すぐれた教育、聖書の知識、文化との関連性、教育性などです。この呼びかけには、注意を払い、心に留め、真剣に捉え、実行に移す必要があります。

救世軍は、自分の信仰を養う人々によって成り立っています。彼らがいなければ真の成長はありません。信仰は静止しません。生きた信仰を保つためには成長が必要なのです。訓練を続けなければならず、働き続けなければ信仰は停止してしまいます。年月が経つにつれ、クリスチャンとして信仰が求められる場面を避けて、安住しようとする可能性があります。ある人は「信仰以外には何もないと言えなければ信仰ではない」と言いましたが、的を射ています。自分の信仰がゆるぎないものであるかどうかは、信じるのみです。人生では不公平さに打ち^{おび}めされたり、振り回されたり、あるいは自分の足元が脅かされるような経験をすることがあるでしょう。そのような時、わたしたちは信仰の確かさを発見するか、それが足りないことに気づきます。同時に、それはわたしたちの信仰が大きくさらに確実なものへと成長する機会となるのです。

救世軍の歴史を通して、人々が受けた奨励や霊的な勝利の物語を見ることができます。信仰は最悪と思える状況においても守られました。実際、逆境によって神に頼らざるを得ないことで、信仰が強められる結果となりました。その逆のこともありました。回心を経験し主イエスを信じて告白した人が、自分の指導が理解されずに落胆してしまう、あるいは不正によって混乱^{きた}を来し、信仰が視界から消えてしまうこともありました。悲しいことに、キリストにある信仰を非常にもっともらしく証言していた人々でさえ、思いがけない障害物に出遭った時、(見事なくらいに) 転んでしまうのです。聖書の知識は増し、クリスチャンとしての奉仕は喜んでしていても、彼らの信仰は養われていませんでした。成長を促されることがなかったのです。

神様の約束に対する誤解、イエスに従えば苦労や問題から解放されるという思い込みや、人生が常にうまくいくと勘違いすることがあります。それは、説教者やクリスチャンの仲間たちによって、神様は慈愛に満ちたおじいさんであるかのような印象を与えられてしまったためかもしれません。そのような人々は、イエスが弟子たちに「あなたがたには世で苦難がある」と言われたこと、また同時に「自分の十字架を負い」従いなさいとおつ

しゃったことにも気づいていないのかもしれませんが。霊的な成長は、しばしば、苦難を通して、あるいは不正と戦うことを通して与えられます。しかし、自分の信仰について考えてこなかった者は、霊的に失われてしまうでしょう。

救世軍の制服を初めて身に着ける時、新しい兵士は霊的に「到達した」という感覚を覚えます。実はこの瞬間から、聖書や講壇から警告されているにもかかわらず、(気づかないほどの) 小さな誘惑が忍び寄っているのです。わたしたちが霊的な成熟を求めることを怠ったなら、霊性が衰える日が来ることは、確実に現実のものとなるでしょう。

幼稚な霊性は格別に見苦しいものです。それは残念なものであり、他の人にも影響を及ぼします。不適切な反響をもたらします。子どもらしいというより子どもじみていると言えます。嘆きや不満や怒りがあらわになります。前向きにならず否定的になります。不幸な状況を解決するために何も努力せず、自分は被害者であると思い込もうとします。

幼稚な霊性は、ささいな問題すべてを神様に解決してもらおうとします。日常のあらゆる困難や悲劇から免れようとしています。うまくいかない時には、それを神様や他の人のせいに、あるいは救世軍のせいにさえるのです。これは実際に見られることであり、悲しいことに、わたしたちの交わりにおいても起こります。考え抜かれたことがない浅い信仰、それは試練がやってきたときに耐えられないでしょう。しかし、このような信仰にならない方法があります。

あの心躍る言葉—研究、開発、そして創出は、信仰を養いたいと思うならば新しい考え方や概念を受け入れるべきだと示しています。研究すること、開発すること、そして創出することは学びの基本です。信仰を心や意思の問題と捉えないなら、そのクリスチャンは信仰を保つための正当な理由や論理を、次第に失ってしまうでしょう。ペトロもまた、自分が抱く信仰について「いつでも弁明できるように」するよう勧めています(ペトロ3・15)。使徒パウロは、もしわたしたちが神様と共にあるなら、神の平和が、わたしたちの「心と考えとをキリスト・イエスによって守る」と約束しています(フィリピ4・7)。

クリスチャンとしての奉仕に忙しくなり過ぎると、時に知的な部分がおろそかになります。それはほめられません。気づかいうちに、クリスチャンの奉仕として始めたことが、活動のための活動になってしまいます。利益のためや天国に入るためというのが目的となり、それは間違っているので決して満足はできないのです。静まって、神の言葉を学ぶこと、大いなる神とそのあり方を学ぶために常に心を開くこと、それは霊的な成長に欠かせません。

このようなわけで、委員会では霊的に成熟し十分に教育された救世軍人に対し、その賜物を役立てるよう呼びかけます。(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第11回「死刑」(3)

实际的な対応

(承前)

4. 救世軍は教会として、家族や被害者、有罪を宣告された人々に対する、専門的なカウンセリングや牧会ケアが、可能ならば、救世軍のセンターでおこなわれることを支持します。それは正義を回復し、打ち砕かれた人々の生活のリハビリテーションに役立つからです。
5. 救世軍は、牧師としての働きの経験を他の人々と分かち合います。また、犯罪を防止し、刑罰の制度が公正なもので、人道にかなったものとなるように、政府に助言していくことで協力を惜しみません。

(2020年6月大将によって承認)

第12回「安楽死及び自殺ほう助」(1)

安楽死と自殺ほう助についての見解表明

救世軍は、すべての人が苦しみと死に面した時に、他人に思いを寄せてもらい、ケアを受けることが大切だと信じています。しかし、安楽死と自殺ほう助がそのことに対する答えであると考えるべきではありません。それらは人間の尊厳を損なうものであり、道徳的に間違っています。それゆえに、救世軍は安楽死と自殺ほう助は違法であると信じます。

見解表明の背景と状況

言葉の意味を明確にし、はっきりさせることが大切です。なぜなら、安楽死と自殺ほう助に関する討議は、言葉の意味が混乱すると難しくなるからです。

- * 安楽死 (Euthanasia) とは、その人の命がこれ以上生きる価値がないと考えて、その人の命を絶つ (殺す) ことです。自由意志による安楽死 (Voluntary euthanasia) は、命を絶たれることに同意した人の依頼によっておこなわれます。自由意志によらない安楽死 (Non-voluntary euthanasia) とは、本人が求めたり同意することができない場合 (たとえば、重度に進行したアルツハイマー病の人など) におこなわれるものです。さらに、自由意志に反する安楽死 (Involuntary euthanasia) とは、同意能力がある人を、本人の同意を得ずにその命を絶つことです。
- * 自殺は、直接、意図的に、自分自身の命を絶つことです。自殺ほう助は、誰か他の人が自殺するのを助けることです。(例えば、どのようにしたらうまく自殺ができるかについて教えたり、そうするための方法を教えたりします。) 医師が手助けをした場合、それは医師による自殺ほう助となります。

現代の医学のおかげで、昔なら確実に死んでいた病気や傷害でも、生き延びることができるようになっています。このような発展は、多くの人々にとって非常に大きな祝福ですが、ある人々にとっては、医療による延命後の生活は、痛みを伴い、制限の多いものであり、時には苦痛に押しつぶされるもののなのです。

生活の質が落ちた状態で生き続けるという経験は、安楽死や自殺ほう助に関する伝統的な規定に対する挑戦が増えていることの原因でもあるのです。

救世軍の立場の土台となるもの

救世軍は次の原則を受け入れます。

- * すべての人は、命の尊厳に敬意を払いつつ、可能な限り苦しみを軽減する手当を受けるべきです。
- * 人が、医療を拒むとか、終了するとかを選ぶことは、自殺ではありません。
- * 医療専門家が、単に死に行く過程を引き伸ばすだけの医療を差し控えたり、やめたりすることは、安楽死ではありません。
- * 耐え難い痛みや苦痛の緩和のために支持療法をおこなうこと (例えば、鎮痛剤によるなど) は、たとえ、副作用として死に行く過程が短くなったとしても、ふさわしいものと言えるでしょう。

死は人間の現実です。最も進歩した医療や行き届いたケアがなされたとしても、常に治癒が可能なのではありません。そして、人は痛みや苦痛にいつも打ち勝つわけではありません。しかし、だれかの苦痛を、その人の死因を正当化するものとして用いてはなりませんし、その人の命が生きるに値しないものだったなどと裁いてはならないのです。

人間の命の尊厳を大切にすることは、私たちが、年齢、健康状態、性別、人種、宗教、社会的地位、業績などにかかわらず、すべての人の価値を認めることです。

神の癒しの力が働き、死にそうな人が息を吹き返すことがあることを、私たちは知っています。しかし、たとえそうであっても、人類に対する神の定めは、人がこの世界で生き続けることではありません。死に関するクリスチャンの信仰は、死を地上の命から永遠の命へ移ることでとしています (テモテニ 4:6~8、コリントニ 4:16~18)。イエス・キリストへの信仰によって、すべての人が希望と確信をもって入っていける命なのです。

安楽死と自殺ほう助を支持する人々は、二つの重要な議論を強調します。a) 個人の自主性 (自分自身の死をコントロールする権利を含むと解釈されています)、もう一つは、b) 他の人の苦痛に同情して動くことです。

救世軍は、人間の自主性を大いに尊重しますが、死にたずさわる権限が人間にあるとは考えません。 (続く)





眞鍋正新兵軍曹 天に召さる

帯広小隊の眞鍋正新兵軍曹（元北海道連隊特務曹長）は、2024年3月16日、急性下肢動脈閉塞症のため、入院先の病院より天に召されました。92歳でした。

眞鍋正新兵軍曹は、23歳の時に、救世軍の野戦を通して小隊に導かれ、イエス様と出会い救われてから、熱心な信仰生活を歩んでこられました。野戦や『ときのこえ』発射に精力的に従事され、毎朝小隊の祈禱会にも出席し、熱心な祈りを献げてこられました。ギデオン協会の十勝支部長として、聖書配布にも重荷をもち、またロータリークラブに所属し、その働きを通して、多くの募金の協力者を開拓され、地域にも多くの霊的な感化を与えてこられました。定年退職後、1997年に2ヵ月間、聴講生として救世軍士官学校で教育と訓練を受け、同8月、北海道連隊特務曹長として任命を受け、約15年間、連隊内の小隊で御言葉を取り次ぎ、人々をキリストに導く働きをされました。その後も、小隊の忠実な下士官として、多くの方々に感化を与えてこられました。

3月25日に前夜式、26日に告別式が帯広小隊士官樋口潔中尉司式でおこなわれ、豊かな恵みによって導かれた眞鍋新兵軍曹の生涯を振り返り、神様の栄光が現される時となりました。

御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。（小隊報）



池田孝之特務曹長 天に召さる

天満小隊の池田孝之特務曹長は、2024年3月29日、老衰のため、自宅より天に召されました。94歳でした。

池田孝之特務曹長は、22歳の時、天満小隊の救霊会に導かれてイエス様に出会い、恵の座で悔い改めの祈りをして救いの経験をされました。2年後、士官学校に入校し任官されましたが、健康の理由で退官。その後、准看護師の免許を取得し定年まで勤められました。せつ子夫人と結婚後は、家庭を開放して子ども会を開いたり、小隊では若い時から下士官の責任を担い、曹長や新兵軍曹などの任命を忠実に全うされました。2000年からは連隊特務曹長の任を受け、連隊の働きを支え助けられました。連合集会の看板や標語などの作成、墓地委員会、祈禱会、会館清掃など日曜以外にも奉仕をされました。最後まで信仰により、よく祈り伝道し、救世軍を愛し、守り、人々に良い感化を与えられた生涯でした。告別式は4月2日、大阪セントラルホールで、西日本連隊長本村大輔大尉司式でおこなわれました。ご家族、ご親族はじめ天満小隊や連隊内、東京からも戦友関係者が多く集い、愛唱歌、聖書箇所、お別れの言葉など、池田特務曹長が生前に準備していたとおりにおこなわれ、温かい告別式となりました。

御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。（小隊報）



阿部秀子書記 天に召さる

遠軽小隊の阿部秀子書記は、2024年3月29日、入院先の広域紋別病院より天に召されました。94歳でした。

阿部秀子書記は、長年にわたり保健婦として、病院、学校、保健所で勤務され、地域の人々に献身的な奉仕をされました。夫君の文雄様の召天後、遠軽小隊の集会に出席するようになりました。1996年8月25日に兵士入隊され、2012年10月、大人部書記に任命されて忠実に役職を果たされ、戦友からも慕われ信頼される存在でした。地域では、民生委員、児童委員、更生保護女性会会員、身体障害者福祉協会副会長、地区介護認定審査委員など、様々な役職に就き、社会貢献に尽くされました。2年前までは、聖別会には欠かさず出席され、車で片道1時間をかけて運転し、紋別からはせ参じてくださいました。その信仰の姿勢は歴代の小隊士官にとって、大きな励ましとなりました。2月8日、小隊士官と病院での面会が許され、改めて信仰告白を確認する時をもち、一緒に聖書と祈りをされたのが最後になりました。天国での再会を信じてご報告いたします。

4月3日に前夜式、4日に告別式が、遠軽小隊士官眞鍋精一少佐司式で執りおこなわれました。

御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。（小隊報）

救世軍公報
転任（カッコ内は継続任命）
補兼（西日本連隊本部付）
（人身取引対策室付）
（合わせて週三日）
栗飯原由美子大尉
二〇二四年三月二十八日付
補財務管理部付
二〇二四年四月一日付
瀬戸口久美子少佐
二〇二四年四月一日付
鶴橋分隊は、二〇二四年三月三十一日付をもって閉鎖する
京都小隊は、後任小隊士官が来日、着任するまで西日本連隊管轄とする
司令官
ステイブ・モーリス



新施設長
清瀬病院介護医療院シャロン施設長（兼）
二〇二四年二月一日付
土居弘幸
救世軍恵みの家施設長
二〇二四年四月一日付
細貝順子
司令官
ステイブ・モーリス

祈りのリソース

●救世軍ホームページ「祈りの手」

今年2月から、日本の救世軍ホームページで、世界の救世軍の祈りの課題を紹介しています。これは、万国本営（IHQ）公式ホームページ内の「International Prayer Focus」という祈りのページで挙げられている祈りの課題を翻訳したものです。一週間に一つの軍国及び準地区を覚え、世界中の救世軍人が心を合わせて祈ることができるよう備えられています。世界の救世軍を覚え、どうぞお祈りください。

日本の救世軍公式ホームページ（www.salvationarmy.or.jp）→「お知らせ」→「祈りの手」からご覧になれます。

（霊的生活成長部）



医療サンデー 6月2日

救世軍の医療の働きと共に全世界の医療従事者のため、祈りましょう。様々な課題の中で働く医療従事者を覚えて、神様のお守りとお導きを祈りましょう。

救世軍創立159年記念コンサート

6月9日（日）午後3時

第8回救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞作発表

会場：山室軍平記念ホール

（対面の集会が基本となります。後日、録画をYouTubeで配信予定）

NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

月島小隊

●イースターサンデー

3月31日(日)、聖別
会後、「イースターの賛
美」として、小隊前の
駐車場で、受難と復活の
救世軍歌の合唱とバンド演奏をしました。午後2時から
は「イースター みんなのコンサート」をおこないまし
た。ソプラノ 小谷野みぎわさん、クラリネット 今村純子



晴天のもと、イースターの賛美をしました

さん、ピアノ 加賀都喜乃さんを迎え、サウンド・オブ・
ミュージックやディズニーの親しみのある曲、「海と空つ
くられた主」「きみもそこにいたのか」「救いの歌声」な
どの賛美歌の演奏がありました。小隊士官平本祐子大尉
がショートメッセージをし、「いつくしみ深き」を皆さん
で一緒に歌いました。新来者、久しぶりに来られた方も
あり、子どもから大人まで、皆でイースターの喜びを分
かち合うひと時となりました。(聴衆 41人)



横浜小隊

●イースターサンデー

イースターを迎
えた日曜日、主の
復活の喜びを表す
ように、昨年の秋
に日曜学校の子ど
もたちと植えた
チューリップの花
がきれいに咲きま
した。



午後には2月に召天された中村準一郎名誉書記の納骨
式をおこない、復活の命に生きる信仰の生涯を覚え、主
を賛美しました。



前橋小隊

●召天者記念会及び献堂 36 周年記念集会

3月31日(日)、イースターの聖日、小隊召天者記念
会として、また献堂 36 周年の日として、西宮幸治少佐
(元前橋小隊長〈1962～1964年〉、36年前の献堂式時には来
日中のエバ・バロズ大將〈当時〉の通訳をした)を迎えまし
た。集会は小隊士官田口哲也少佐の司会で進められ、西
宮少佐は「最後のラッパの鳴るとき」(コリントー 15・50
～58)と題し、メッセージをしました。

午後は愛餐会の時をもち、参加者一同昼食を味わいつ
つ、36年前当時の献堂式の音声を懐かしく聞く時をもち
ました。



発行日及び定価
▼発行日
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行
▼定価
福音版・一部 四〇〇円
広報版・一部 一〇〇円
クリスマス特集号 十二月一日号
一部 一〇〇円
振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブン・モリス
編集人 山谷 真
〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二ノ十七
電話 東京(03)三三七〇八八一
発行所 救世軍本営
印刷所 株式会社ヒーアンドエス

(取扱支部)